



杏林大学 社会科学部 菅原ゼミナール

Think globally, act locally.

2002年

海外研修旅行レポート - ベトナム、タイ編 -



(ホーチミン市でストリートチルドレンの学校を訪問する)

杏林大学 菅原秀幸研究室
www.SugawaraOnline.com

【研修旅行日程】

- 9月12日 成田 バンコック ホーチミン
- 9月13日 企業訪問（味の素、ワコール） 戦争博物館見学
- 9月14日 メコン川クルーズ
- 9月15日 ホーチミン市にて各自のプランによる個人研修
- 9月16日 ロンハイ（ビーチリゾート）へ移動
- 9月17日～18日 ロンハイにてリゾートライフを満喫
- 9月19日 ロンハイ ホーチミン バンコック（解散）
- 9月20日～24日 タイにて各自のプランによる個人研修
- 9月25日 バンコック 成田



屋台にてベトナム料理を堪能、この後全員はらをこわす



路上生活する子供を支援するNGOを訪問し、現地のスタッフと質疑応答

海外研修旅行レポート

四年 浅見真也

今回はベトナムを研修旅行先に選んだ。個人的に初めて訪れる場所なのでとても楽しみにしていた。そして私は旅行係なので、四年生として、また旅行係としてみんなを引っ張っていけるように努力をした。

今回、良かった点、反省、改善する点、個人での旅について、全体の感想という点からレポートを伝えようと思う。

良かった点

(1) ストリートチルドレン友の会を訪れたこと

普段からボランティアに力を入れているゼミで、お金を送るような間接的なボランティアより、やはり直接その場所に訪れて交流をしたということはとても良いことだと思う。儀賀さんとも少しお話を聞くことができ、良い経験をすることができた。また旅行係として先生に力を借りてしまったが、儀賀さんとアポを取ることができたので良かった。

(2) 企業を訪れたこと

今回、味の素、ワコールを訪れた。前回ネスレを訪れたときは、英語だったためわからなかったが、日本の企業の日本人と直接お話を聞くことができたので、質問もスムーズにできた。(実際は、英語でお話をできることが望ましいことだが。)

(3) 最後にリゾート地を選んだこと

今回の旅行で最後ロンハイのアノアシスピーチリゾートを訪れたので、ゆっくり旅行をすることができたと思う。個人的に下痢がみだったため、ここでゆっくりできたことは、そのあとタイへの旅がスムーズに行うことができた。

反省、改善する点

(1) 行動が遅いこと

研修旅行があるたびに言っていることなので、先生もうんざりしていると思うが、アポを取ることにしても、なかなか行動に移せず、直前になって決まったことを反省し、改善できることを望む。そして大学も訪れることももっと早くアポを取っていれば変わっていたかもしれないので、反省したい。

(2) 先生に頼ってしまったこと

アポを取るにしても、企業は全部先生に頼ってしまったことを旅行係として、とても反省しなければならない。

(3) 三年の旅行係に何も伝えてやれなかったこと

私が三年の旅行係に、アポの取り方、旅行係が研修旅行を引っ張っていくことなど、旅行係内で話し合いをすることができなかった。

個人の旅について

今回、個人でタイを旅行した。それは、私にとって大きな経験と財産になったと思う。

そこで今回、タイでどういう行動をとっていたかを説明します。

・バンコクからチェンマイへ(バスを使って)

とりあえず、バスターミナルへ着き、チケットを購入。すぐ行きたかったので即購入したら2クラスのバスだったらしく、回りは皆タイ人だった。隣に座った青年と英語で会話をしたり、いっしょに食事をした。11時間くらいかけて着いたときにはすっかり夜だった。そしてゲストハウスにチェックインした。ゲストハウスはどうかとおもったが、まったく問題なかった。

・チェンマイ観光

チェンマイの町を観光した。バンコクと違い、とても落ち着いた雰囲気でのんびりすることができた。夜になるとナイトバザールというものが始まり、物を買わなくてもその雰囲気がとても良かった。

・トレッキングツアー

トレッキングツアーをした。やはりあまり時間がなかったため、日帰りにした。そして山登りは相当疲れた。しかし、象に乗ったり、カレン族の村に訪れたり、バンブーラフティングを行った。いままで体験したことないことばかりだったのでとても良い経験になった。また他の日本人がいたので友達になって、お互い旅の話をしたので、とても良い思い出になった。

全体の感想

今回、先生と学生達でベトナムを研修旅行した。そして個人としてタイを旅できたことは、私にとって大きな財産になったと思う。

ベトナムでは、企業、ストリートチルドレン友の会に訪れることができた。これは個人ではできないことであり、ベトナムの日系企業、友の会で働く人のお話を聞いたことは、良い経験になった。

また個人の旅では、自らが進んでスケジュールを計画し、行動したことはとても良い経験になった。そして今度行く機会があれば、またチェンマイへ行って、2泊3日のトレッキングツアーを行いたいとおもう。

今回2週間、日本では経験することができないことを多く経験することができたとおもう。そして、その経験をまた違う形で生かせることができれば良いとおもう。

ベトナム研修旅行に参加して

4年 北畠明子

1) ベトナム研修旅行を通して学んだ事

『働く』今回の旅行で強く意識させられた言葉です。今回の旅行で様々な働くという姿に出会いました。

私達は2日目に味の素とワコールの工場見学しに行きました。味の素とワコールの工場は首都のホーチミンからバスで一時間ぐらいの工業団地の中にありました。最初に味の素の工場を見学しました。味の素ベトナムはベトナムの企業と日本の味の素が50%ずつ出資をして、現地法人として営業していました。味の素と「アジゴン」という粉末のスープの素を製造し全てベトナム国内で販売するそうです。味の素の原料はさとうきびとタロイモという事を知りました。次にワコールへ行きました。ワコールの工場は日本のワコールが100%出資していて、日本向けにトリンプというブランドの商品を製造しているそうです。どちらの工場でも日本人の方に質問する時間やお話をする時間があつたのですが、その時にどちらの工場の日本人も生き活きと仕事をしているということを感じました。そして、「日本とベトナムどちらで仕事をするのがいいですか?」という質問に全員「ベトナム」という答えが返ってきました。理由は決断が早い、自分の思い通りに仕事ができる。活気があると挙げられていました。そしてベトナム人はハングリー精神がある。勉強しようとする姿勢が強いとおっしゃっていました。

5日目、私達はストリートチルドレン友の会が運営する学校を訪問しました。ストリートチルドレン友の会ではストリートチルドレンが生活環境を改善するための掛け橋となる事を目指し、無料の学校、職業訓練を実施していました。そこで職員として働いていた日本人スタッフの儀賀さん。儀賀さんは日本でOLをやっていたがボランティアをやってみたくなってストリートチルドレン友の会の事務所で働きながらベトナムで生活をしています。儀賀さんに「ベトナムの生活は大変ですか?」と質問したところ「環境が違うから大変だけどおもしろい」その時の笑顔が輝いていたのがすごく印象的でした。

私はベトナムで仕事をしている日本人に会い彼らの輝いている秘密はなんだろうと考えました。たぶん、日々の生活に流されてない所なのかもしれません。自分自身の中に明確な目標がありそれに向けて努力を常にしているからだと思いました。

そして、これはタイ・カンボジア研修旅行の時も感じた事ですが、市場や路上の屋台でベトナムの人々を観察していると、大人も子供も真剣に生き活き働いているという事を感じました。それは今日のご飯を食べる為という問題に直接繋がるからだと思います。日本のサラリーマンは今日の仕事が今日のご飯に直接影響をもたらされるという意識がほとんどないと思います。ベトナムは社会主義国家だけど、実際は資本主義社会で、日本は資本主義社会だけど、実際は社会主義社会に成ってしまっていると感じました。

2) 反省すべき点

反省すべき事は自分の気の緩みが失敗の原因であると思います。まず、体調不良でみんなに心配をかけてしまった点です。前回のタイ・カンボジア旅行で私はお腹を下しませんでした。それは偶然だったと思います。前回、下さなかったから、大丈夫という過信がビーチリゾートでの体調不良に繋がったと思います。ビーチでのんびりしている日だったからよかったが、これがハードスケジュールの

日だったら周囲に迷惑を更にかけていたと思います。そしてちゃんと薬を持っていってればこんなに酷くならずすんだと思います。

そして市場でスリに遭った点です。私は今まで何度も海外に行っていたが、パスポートや貴重品は靴の中に入れて管理をしていました。それは、一度も盗難の被害に遭った事がなかったです。だから今回も大丈夫という思い込みでズボンの後のポケットになにげなく現金を入れてしまいました。そして、市場でも買い物に夢中でガイドさんが言っていたスリに注意する事など全く頭の中から消えてしまっていました。スリはすごいと思いました。ポケットに誰かがぶつかったと思った瞬間にはスラれていて、誰が犯人かも解らなく行方をくらまして逃げて行ってしまいました。

「一步、日本を出たら水と治安は無料ではないと思え」

3) 改善点

改善点として若者にはビーチリゾートはまだ早すぎると思うので、もっとハードな旅行にするべきだと思いました。菅原先生は「ビーチでのんびりする事、何もしない事を学べ」とおっしゃっていましたが、私は研修旅行には刺激を求めます。若い時、今しかできない事をやるべきだと思いました。様々な場所へ行き、様々な人に会い、様々な文化に触れる事が今私達に必要な事だと思うのでもっとハードに刺激的な研修旅行にすべきだと思いました。

4) 合宿全体を通しての感想

ベトナム研修旅行を通しての感想は、最終日に先生の部屋で反省会をした時にほとんどの3年生が研修旅行に来てよかった、自発的に動いて行こう、また来年も行きたいという感想が出て、「グローバル社会」と授業中に先生が話しているが日本の中で暮らしているとグローバル社会という事を感じる機会はほとんどないと思います。しかし、実際に日本から出て外国に行き自分と異なった文化に触れ、多くの人と出会う経験は自分自身にとって重要な価値を持つと思います。貴重な経験をさせて貰えて菅原ゼミに入ってよかったなと感謝したいと思います。そして、今回3年生がこの旅行で得た経験や感動を後輩に伝えてあげて欲しいと思います。

菅原ゼミナール海外研修旅行 in VIETNAM 2002/9/12-19

4年 永田 幸子

海外研修2回目。ベトナムはもちろん初めてだ。企業訪問、NGO団体訪問、リゾート地と今回もまた内容の濃い旅行になった。就職も決まっていなかったので行くか行くまいか最後まで悩んでいたが、やはり行ってよかった。日本では決して経験できないことがあった。考えさせることも多くあった。

ただ、準備段階においてぎりぎりまで決定しなかったことが多かった。ベトナムにはコネがないということもあり、先生や旅行係もがんばってくれたが企業訪問にコンタクトが取れずに最終打ち合わせの9月6日を迎えた。しかし、打ち合わせ終了後に直接電話をかけ、ベトナム味の素社とベトナムワコール社とのコンタクトが取れ、2週間前という急なことであったにも関わらずほぼ訪問予定が決定した。また、ストリートチルドレン友の会と言うNGO団体ともコンタクトが取れ、訪問予定をた

ることができた。

こうして通常のバック旅行や観光旅行では体験できない企業訪問とNGO団体訪問が実現したわけだが、やはり反省点がいくつか残る。

- ・研修旅行2週間とぎりぎりになってからやっと予定がほぼ完成した点。
- ・急な申し出のため、先方に迷惑になったかもしれなかった点。
- ・企業やベトナム経済についての調査が浅かった点。

3つとも急な予定のために発生した反省点だと思う。「早めに早めに」という去年のタイ旅行についての教訓が今回、あまり教訓となりえなかった。次回の大きな旅行では、今度こそこの教訓を生かしてほしい。

ベトナム、ホーチミン市はとてもエキサイティングな街だった。去年のタイ・カンボジア旅行もエキサイティングだったが、何せ旅行の後半カンボジアでお腹を著しく壊していた。3分の1は腹痛の思い出になっている。そのおかげで免疫ができたのか、今回のベトナム旅行では現地の人しか行かないような屋台で食べたにも関わらず、前回ほどのひどい腹痛はなく軽く下した程度で済んだ。旅行の後半では3年生のほとんどが腹痛との闘いを経験したようで、きっと次の旅行では強くなっていることだろう。

わたしはタイ米の香りやココナッツミルクの風味が苦手だったが、ベトナムの料理は本当においしい。少し癖のある料理ももちろんあったが、苦手と言うほどでもない。生春巻きはもちろん、揚げ春巻きにバンセオと言うベトナム版お好み焼きは美味だった。一番のお気に入り、レストランでも、ホテルの食事でもなく、屋台で食べたフォーと言うベトナムの麺料理だ。少し酸味があり、野菜がたっぷり入っている。独特の香りがするがあれがお気に入りだ。食べ物は旅行の良し悪しを左右する大きな要因であることが前回と今回の研修旅行を比較して感じたことだ。

ストリートチルドレン友の会を訪問し、写真をたくさん撮った。子供たちが予想以上にはるかに元気で笑顔であったことが嬉しかった。近くの広場へ行っておみやげのおもちゃなどで遊んだ。20歳を越えたことも忘れてゼミ生もはしゃぐ、はしゃぐ。

しかし中にはほとんど笑わず端からみんなの様子を見ている子供もいた。子供の中でもそういう子はいるだろうが、あの子は性格上と言うよりもどこかあの場にはいけないような顔をしていた。そしてふと気付くといなくなっていた。帰ったのだろうか。今回わたしたちとコンタクトを取って頂いた儀賀さんがおっしゃっていた言葉を思い出す。「子供たちはとても元気で手におえないこともよくあります。しかし中には心に傷を負っている子供もいます。彼らには長い時間をかけてケアをあげる必要があります。」あの子がどうか元気で、笑顔になる日を願うばかりだ。

わたしたちに何ができるだろうか。杏園祭で写真展をしようと計画中だ。いい写真とは言えないものばかりだが、少しでもこういう子供たちがいるということを知ってもらえたらいい。思ったより写真がうまく撮れていなかったのも、どうしようかと思っていたが、やはりやるべきだと思う。少しだけでもいい。上手な写真じゃなくてもいい。ベトナムでは貧しく教育の受けられない子供たちがたくさんいるということを知ってもらいたい。

学校が終わってから、彼らは稼ぎに出かけると知った。みんなで遊ぶということはないのだとも知った。自分の中に子供は遊んで大きくなっていくという固定観念があったことを知った。

この訪問は、ベトナムの光と影の影の部分垣間見たと思う。市場の熱気とは違うベトナムの一面を見ることができた。そういうものを他の誰かに伝えられたらいいと思う。

アノアシスピーチリゾートホテルは最高だった。かやのついたまるでお姫さまが寝るようなベッド。ひとつひとつが広いバンガロー。しかしトカゲだかヤモリだかが大量にいる。害はなかったのであまり気にせず過ごせた。雨季のため海はメコン川の水が流れてきていてきれいと言えるものではなかったのが唯一残念な点だ。

杏園祭で輸入販売をする。ゼミの学生が全員で少しずつお金を出し合いベトナム商品を買付け、売る。自分たちで実際に輸入販売を体験すると同時に、ベトナムは物価が低いので利息をつけ、儲かったお金はこの旅行で訪問したストリートチルドレンの会や、私たちの里子がいるタイのフォスタープランへ運用していく。(杏園祭での販売が成功すればの話だが)ベトナムでお金を出して買ったものが日本で原価より高く売れ、またそれをアジアの貧しい教育を受けられない子供たちへと回っていく。貨幣は世界を回っている、と身近に感じた。

日本で何かを購入したとしても、それは日本国内だけを回っているとは限らない。そのお金は外国の安価製品を買付けにまわっていつているかもしれない。グローバリゼーションは経済のグローバル化であるが、それと共に貨幣そのものが世界を旅していることに気付く。身近なところから実際は見えない動きでグローバリゼーションはわたしたちの周りに多く存在しているのかもしれない。いや、存在している。

海外研修ベトナム・タイのレポート

3年 岩崎雄樹

- 1：初めての海外旅行
- 2：ベトナムでの体験
- 3：ベトナムでの反省・感じたこと
- 4：タイでの体験
- 5：タイでの反省・感じたこと
- 6：考察(旅行を通じて学んだこと・感じたこと)

1：初めての海外旅行

初めに、とてもよい経験をする事ができて、四年生の浅見さん・弓鳥君をはじめとても感謝の気持ちでいっぱいです。もちろん菅原先生も、どうもいろいろお世話になりました。ありがとうございました。

当初、まえまえから海外研修の話が出てたときに、僕はあまり乗り気ではありませんでした。なぜなら、現実にか考えたときに約20万円という額にひいていたからです。そのときに僕はちょうど車を改造したく、タイヤのアルミがほしかった。その額がちょうど20万円ぐらいだった。旅行で20万円使うか、車のアルミで20万円使うか、トレードオフの関係にあり迷っていました。でも今となったらアルミなんか20万円出さなくて旅行で良い経験ができたこととても満足しています。

行ってみて初めてわかるが、お金とかそういう小さい枠組みではなく、そんなことよりより大きなリターンがあると感じました。こういう自分にとって大きなプラスになる経験は、お金や時間を出し惜しみなく使うことができると感じこれからのいい教訓になりそうです。一日で服を買ったり、パチンコで、7・8万使うなら飛行機の往復代にまわして異国の地を歩いた方がどんなに自分にとってプラスになるかつくづく感じました。

僕は、日常の生活にほとんど愛想がついていたので、ここでの経験・旅行は自分にとって、とても良い刺激になりました。それは、僕は無駄に無理して車を買って、維持とローンに終われ毎日バイト三昧。自分で自分はフリーターではないかと錯覚するぐらいです。大学も要領よく単位をとり、これといって何かに向かい勉強しているわけでもない。そんな中途半端な自分に今は学生だから、今しか遊べないからなどと言いついて聞かしていました。そんな日常だったからこそ今回の旅行は全てが新鮮だったし、刺激になり多くのことを感じ、学べたと思っています。

これからは、今回の経験を活かし、自分にとってのお金や時間の使い方を考えさせてくれたと思います。

今回の旅行での費用は全部自分でだすつもりでした。なぜなら学生が海外旅行に行くのに親から出してもらうのは筋違いだと思っていたのですが、金額は自分だけでは用意できず、親から借りようと思ったのですが結局、半分は出してもらいました。半分の費用を返さなくていいと言ってくれた親にも感謝の気持ちが深いです。

そして、少し大げさだが、やはり人間は人に支えられていくものなのだと感じました。なぜなら、年々会話が減る親父にも気をつけろとか、これもってけとか、気を使ってくれたし、おふくろはお守り買って来たし、おばあちゃんは墓にお祈りするぐらい心配してくれた。もう21歳なのに照れくさいけれどうれしかった。友達もみんなメールくれたり、帰ってきたらお帰り飲み会を開いてくれたり、あー自分はやっぱりみんなに支えられてるんだなと感じました。そのことを身にしみるぐらい実感できたのもこの旅行でのリターンだなと思いました。

2：ベトナムでの体験 3：反省・感じたこと

2：4：に関しては順に追いながら書く。(感じたことを含め)

初めに企業訪問。味の素に訪問した。

味の素という企業が海外に出ていること自体に驚いた。日本だけだと思っていた。社長を含め3人に詳しく話を聞き刺激を受けた。夕食を一緒に食べたときにビールも進みいろいろ本音を聞くことができた。名前を忘れたが少し太っている方の人にもいろいろ聴くことができた。まだ、ベトナムに来て一ヶ月で家族と会えないのが寂しい、子供に合いたいなど、愚痴をふまえ話してくれた。

しかし、もうこちらの生活にも慣れ、不便ながらも居心地がよいと言っていた。それは、味の素の会社でのサポートがしっかりしているのだなと思った。

それは、やはり海外スタッフというのは酷であると思う。だから、その分多少の贅沢はできているのだと感じた。それを今は楽しんでいるようにも見えて少しだけうらやましいと思った。

ワコールを訪問した。

ブラジャーを主に作っていたので少し戸惑いを感じたと共に興味が薄れた。しかし、ワコール訪問で一番感じたのは二人の日本人スタッフの人の迫力だった。それは、いい意味であっ、この二人はできるな、味の素の人とは一味違うなと感じた。妙に落ち着いていたし、いきなり大人数で訪問したのもあり愛想がないと正直感じた。僕も質問を考えていたが4年生がするどい質問をしていたので、質問ができなかった。

そして印象に残ったのが、ベトナム人は良く働く。外見でその人の人間性が解るものではないという言葉だ。豊かな国だからより人間性にすぐれているというわけではないのである。

ここでの反省点が積極性に欠けたことである。

戦争博物館にいった。ガイドのリンさんに説明をうけながら写真をみてまわった。うまく言葉にできないが、非常に複雑な気持ちになった。

僕がこの旅行で最も感じたことで一番考えさせられて複雑になったのは、僕らを外国人としてみるのは当然だが、チップをせがまれることだ。はじめにチップリーズといわれたときはおもわず無視してしまった。あげない方がいいか、あげてもいいかという問いの答えはむずかしいと思うし、人それぞれだと思う。僕は2・3日ずっと気になって考えて自分なりに答えを出した。

それは、基本的にはチップをあげるという考えだ。なぜなら、戦争や地雷で足を無くした人や手がない人が本当にたくさんいた。そして僕ら、外国人を見るやいなや寄ってくる。この人達は自分だけの力では食べていくのにも困難だと思う。

僕らはたまたま豊かな国に生まれ何不自由なく生活している。少しのチップでも本当に頭を下げてお礼をいう。このときにチップをあげることにより、その人達を上立場から見ているような感じに陥ってやはりあげてはいけなさと感じるが、僕はそれを超越していると明らかに感じた。それは、同じ人間なのに僕らとは環境も日常も違う。貧しい人が生きるためにチップをせがむ。豊かな国に生まれた僕らには余裕がある。だから、きれいごとぬきに少しだけ援助するという気持ちになったのである。もちろんあからさまに観光客を狙ったボッタクリや詐欺の人達にはさらさら払う気はないが、自分の中でこの人には援助してやろうと思った人には僕は積極的に少しのチップをあげた。

メコン川に川くだりに行った。正直想像していたより興奮しなかった。

自由行動のときベトナム市場にいった。

物価も非常に安いので興奮してたくさんおみやげを買った。弓鳥君の助言でだいたいの物価の標準を教えてもらい値切り交渉をしながら買った。このときに少しずつのディスカウトが非常におもしろかった。はじめはこのぐらいだなと思い妥協していたがはじめに提示される半額近くまで値下げすることができた。

こつは、はじめに無茶苦茶な金額を提示して相手にあきれさせる。そして少しずつ価格を上げていく。相手が少し止まったら売ってくれる。OK・OKと連呼して握手する。それでもだめならじゃあ買わないと立ち去るふりをすれば間違いなかった。

このように、日本という先進国の外国人として現地の人と話すのではなく同じ目線に立ち、貧乏旅行したほうが、高い金を積んでツアーでまわるよりはるかに、よりよい経験ができると感じた。

ストリートチルドレンの施設を訪問した。

印象に残ったのがまず純粋な笑顔である。つらい経験をしてこの施設にいるのにも関わらず僕らと本当に楽しげに遊んでくれた。しかし、中にはあまり笑わなく集団からはずれ寂しそうな子もいた。僕はなるべく気をかけ、あまり笑わない赤いシャツを着た女の子と遊んだ。キャチボールをしていたらだんだん心を開いてくれたのか笑ってくれた。純粋にうれしかった。

もう一人集団からはずれて少し年上の男の子とずっとサッカーをやった。この子は本当にサッカーセンスがあった。僕は大人気ないので本気になったりテクニックをみせつけてしまった。

この施設だけではないが感じたことは現地の言葉で会話ができたとこしたことはないが、結局は HEART TO HEART だな、笑顔だな、ジェスチャーだなと強く感じました。

リゾート地にいった

着いて部屋をみて、プールに入っただけの感想は、おいおい学生の身分でこんな贅沢味わっていいのがよって感じました。ここでは本当にのんびりリラックスしました。

二日目にバイクを借りて飲み物とお菓子の買出しに行ったときにガス欠でバイクが止まり立ち往生していると、通りがかりのおじさんがやさしく声をかけてくれ助けてくれた。ベトナム人しかも地方の人なので本当に親切に接してくれた。うれしかった。

ベトナム人は親切で、女性は本当にきれいだった。日程にも無理がなくベトナムを満喫できたと大満足です。

4：タイでの体験 5：反省・感じたこと

タイでは初めに一日かけてコーンケーンに行きチャムナン君の村を訪問した。チャムナン君は照れくさそうにしていた。けれども本当にうれしそうにしていた。弓鳥君からの話とはうらはらに想像よりも豊かだった。村を案内してもらい、寺に上がり食事を出してもらった。僕らもベトナムでそれなりに慣れたつもりだったが正直、手は進まなかった。

自分でタイ語のハンドブックを持っていったがあまり会話ができなかった。もっとチャムナン君と話したかった。あからさまに僕達の勉強不足だった。そしてまた一日かけバンコクに戻った。

ここからは、各々個人行動をした。といっても、ゲストハウスを合わせたり、夕食を一緒に食べに行ったりした。みんなでカオサン通り付近に宿をとり2・3日バンコクを満喫した。バンコクでの反省点は、予定をしっかりと組んでいなかったために昼過ぎ行動が多かった。目的もなくカオサン通りをぶらつきすぎた。

自分はなるべく戸井をフォローするように心がけていた。それは何かと大変そうだったからである。たまたま自分がリーダーシップをとったからわかったが、協力的なやつと非協力的なやつに別れる。だから人任せなやつには多少頭に来た。なので、これからはゼミ生はみんなで協力してやっていきたいと思う。

タイではベトナムに比べ屋台での飯が本当にうまく、ビールも進み体重が増えた気がする。バンコ

クはベトナムに比べあからさまにポッタクリ熱が激しいと感じた。なんか町ぐるみでやっているふうにも感じた。実際ぼくと立川は何回かだまされた。

だんだんタイ人は信用できなくなってきたときに小さい子がぼくらによってきて、英語でどこ行くのとか親切に教えてくれた。しかしその子供も詐欺に見えてかるくあしらってしまった。後からきずいたが、あの子は純粋にしんせつだった。タイ人の印象は働き者。ベトナムは、道やカフェで休んでいる人が多いがタイはあまり休んでいないと感じた。

タイでは最後の方お金がほとんどなくなり、ベトナムより質が良かったのもっとお土産を買いたかった。マッサージも気持ちよかった。ムエタイも迫力があつた。王宮や寺は興味がわかなかった。

6：考察（体験して感じたこと・教訓・これからに生かせること）

考察は1・2・3・4・5で感じたことを書いているのでより強く感じたことを箇条書きしていく。

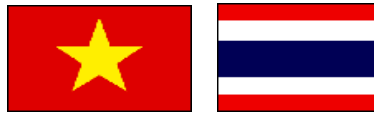
- ・ 外国人扱いされチップを要求されること
- ・ ベトナムやタイでは英語・日本語がしゃべれれば一番お金を稼ぐことにつながる
- ・ 現地の人と同じ目線に立ち心と心のキャチボールができたこと
- ・ 人任せではだめで思いやり、協力的になること
- ・ 発展途上国では先進国の方が観光で訪れお金を落とすことにより経済が成り立っているという事実
- ・ 積極性に欠けたこと
- ・ お金と時間の使い方について考えさせられたこと

以上の点をふまえこれからの教訓として、この経験をいかしていきたいと感じました。

以上



味の素を訪問する



私は、この海外研修に出る前、ベトナムについて人口や面積、ベトナムはスリヤボッタくりが多いなど、世間で言われているようなことしか知らなかった。しかし、この2週間は毎日が新しいことの体験や発見で内容が濃いものとなり、ベトナムやタイの現状を知り、その地域の人に少しでも触れられたことで、今までとは全く違ったことを考えさせられ、とても有意義なものとなった。そして、このように友達と旅行をしたのは初めてだったので、きっと一生忘れる事のできない旅行になったと思う。

ベトナム編

空港で皆と合流して飛行機に乗ると、隣にはアジア系の外国人の人が座っていた。彼は、飛行機から何かが見えたらしく、よく分からないことをいっていたので覗いてみると、富士山だった。初めて飛行機の中からみた富士山の頂は絶景だった。彼に『富士山』という言葉を教えてあげると、彼は自分のことを話し始めた。彼は海外出張の途中で母国はミャンマーの方だった。そして、始めてこのように会ったばかりの目上の方に名刺をいただいた。この時から私と英語との格闘は始まった。

飛行機を乗り継ぎ、ベトナムに着くと親や周りの人から話を聞いていたせいか、多くの人から見られ、狙われている感覚に陥った。最初に驚いたことは、誰でも始めに述べると思うが、原動付自転車の多いことだ。ヘルメットはなく、2人乗りは当たり前、3, 4人乗りのもの凄量のバイクが道路を埋め尽くしていた。日本では想像つかないことが、この国では生活の足となってそれぞれが活用しているのである。後に、味の素の人に伺った話だが、バイクはベトナム人の財産だそうだ。

町を歩くと、幼い子供がやってきて、『買って、買って!』とガムをもって、手を差し出してくる。断っても断っても、ずっとついてきてしまうのである。他にも、目が見えないお婆さんをひいている子供や年配の方が歩き回って物を売っていた。この光景を目の当たりにする度に日本の豊かさと不公平さを痛感するのである。このようなストリート・チルドレンや店の定員は、日本人観光客の多いせいか、たいてい片言の日本語で話しかけてくる。生活を養うために、店の定員は日本語学校に通っていたという人が多い。ホテルの従業員は英語を巧みに話す。子供の中でも学校へ行ける子供は、ある程度の資金がある家でないと学校へはいけないというのに、中学校から英語を勉強している私たちと比較すると、やはり根気の問題であろう。

また、多くのバイクが通行している中、横断歩道を渡らなければならないため、交通事故が多発しているのがベトナムの現実である。私も、横断するのを何度ためらったか覚えていない。そして、ベトナムにはタクシーのようなバイクという乗り物がある。全て値段は交渉して決まるのだが、3人乗りでもよく、タクシーよりも早くバイクで混雑している中をスイスイと通り抜けるので、とても気持ちのよいものだった。一度乗ったとき、二人で1 \$ と思っていたら、2 \$ だと言われ話し会っていたら、全く関係ない地元の人が入り込んできて、日本語で『2 \$、2 \$』といわれ、結局2 \$ 払うことになってしまった。ベトナム人の部族意識の強さを感じた瞬間だった。

ストリート・チルドレン

私たちは、ホーチミン市内にあるストリート・チルドレンの施設に向かった。中に入ると元気いっぱいの子供たちがいっせいに取り囲んでくる。これから授業を受けるという小学校1年生位の生徒たちが、先生の言うことを聞いて並んでいる姿は普通の小学生と全く変わらない。幼いのに親がいないことや親と離れているということを感じさせない陽気さは、健気さにも感じてしまう。このまま素直に成長して欲しいと思う。遊ぶ時間になると、私たちが持っていったおもちゃより子供たちはカメラとフラッシュに好奇心を注いでいた。外に出ると、じゃんけんは通じたようで鬼ごっこやサッカーをして、はしゃぎ回り言葉も通じないのにすっかり仲良くなり、私たちも終わる頃には疲れきってしまった。しかし、遊んでいる途中、なかなか打ち解けられない子供もいて、気になってしまった。こっだけ子供がいれば内気な子供もいて当然だと思う。しかし、コミュニケーションのとり方を知らない世間には出れないのはどこの国でも同じだろう。これから、たくさんの人と出会う中で多くのことを吸収していつてもらいたい。そして、少しでもベトナムが発展してこの子達の将来を支えてあげてほしいと思う。

味の素・ワコール

企業訪問は、味の素とワコールだった。味の素は、従業員数670人、売上高40億円というベトナムの中でも大企業である。商品が出来るまでの経路、キャッシュオンデリバリー、賄賂の実態など厳しい質問にも的確に答えて下さった。今後の課題として、商品の多角化を目的としているとおっしゃっていた。会社の中は、ベトナムの町とは想像もつかない位に清潔を保っており、私たちと同年代位の女性の人たちが流れ作業を行っていた。訪問後、夕食会にまでも付き合ってもらい、場所も教えていただくほど気さくな方たちであった。

ワコールは、従業員のほとんどが女性で、全て手作業で行っており、月給は8000円だそうだ。御社は、90%輸出しているが、材料は100%輸入している。今後の課題として、日本との製品の値段が下がっているため、生産性を高めなければならない、そして従業員の活性力の低さを問題としているようだ。ベトナム人は、昼休みがきちりとしていて、サービス残業をしないというのがモットーである。後に、ベトナムワコールの工場運営を日本人ではなくベトナム人に任せたいというのも難しいのではないかと。しかし、最後にお別れを言ったときの従業員たちの笑顔が忘れられない。

ベトナム戦争

ベトナムと聞けば誰もがベトナム戦争のことを口走ると思うが、実態は想像をはるかに超えている。ベトナムのあちこちで今だ枯葉剤・ダイオキシンの後遺症の患者が見られる。10数年前に有名になったベトナム・ドクちゃんの入院している病院を通りかかると、なんともいたたまれない気持ちになる。現在も病院は、枯葉剤・ダイオキシンの影響について研究を進めているという。1日に100人~130人の子どもが生まれ、その中の1.7%が奇形児(1998年は28216人の子どもが生まれ、内331人が奇形児)であり、1.7%のうちの40%は産まれるがそれ以外は死亡するという。奇形の原因はほとんどベトナム戦争の影響であり、最近また増加する傾向にあるらしい。また、

奇形児を産む可能性のある女性は 1.51%とのこと。予想していたより厳しい現実である。早く、この数字が0になることを願いたい。

そして私たちは、戦争証跡博物館に向かった。ベトナム戦争当時の虐待行為の写真や実際に使用された爆弾や戦車などが整然と並べられている。館内に入ると私たちに何かを訴えかけているかのような虐待事件の写真が目飛び込んでくる。ベトナム戦争の知識のない私にも、あまりにも悲惨な現実を目の当たりにすることになった。そして、最も記憶に残っているのは、牢屋に入って痩せこけている本物の人かと思えるほどのよく出来た人形である。罪が重ければ重いほど刑はひどくなっていく、そんな残酷さを物語っている光景だった。この時、私には沖縄合宿へ行ったときのマブチガマの語り部さんが話されていた『戦争では、偉い人が助かって、いつも罪のない人たちがばかりが犠牲になるんですよ。』という言葉が蘇っていた。

タイ編

タイでは弓取祐平さんなくしてはならない旅であった。両替の仕方、ホテルの手配、ホスタープランとの連絡、タクシー・トゥクトゥク・電車・バスの乗り方の伝授、全て弓取さんに頼ってしまった。本当に感謝したいと思う。

バンコクはとても発展していて、到着した日、コンビニにひどく感動したことを覚えている。ベトナムのようにバイクやストリート・チルドレンは少なかった。発展しているせいか、ストリート・チルドレンが少なかったことは、嬉しかった。

これは、ベトナムでも感じたことだが、道などで困っていると親切に教えてくれたり、電車の改札口やバスに乗る時も荷物を持ってくれたり、日本に比べると本当に親切な人が多いと感じた。パタヤで降りるバス停を間違えて、何も無い場所に降ろされ、ホテルの場所が全く分からなかったときソントオ(小さな乗り合いバス)のおじさんが、乗り合いバスにもかかわらず、似た名前のホテルを探して回って、目的のホテルまで送ってくれたのは感激した。

チャムナン君

コンケンには、バンコクからバスで6時間位だった。そこは、思っていたより、発展していたので驚いた。

ホスタープランの大学生がホテルまで迎えに来て下さり、チャムナン君のもとへ向かった。その大学生は、コンケン大学の方たちで皆巧みな英語で説明してくれた。同じ大学生として上手く答えることが出来ずとても恥ずかしかった。

チャムナン君の所につくと、日本にはない数々の習慣に少々戸惑ってしまった。そして、何よりも英語とベトナム語との狭間でとても心苦しかった。しかし、今までただお金を送るだけの援助だったので村に行けて良かったと思う。そして村が発展してきたため、あと2, 3年もすれば援助も要らなくなるといっていたので本当に嬉しかった。

チャムナン君と別れを告げたあと、大学生の方たちがコンケン大学に連れて行って下さった。杏林大学とは比べものにならないほどの広大な敷地で、車かバイクがないと全て回れない程の大きさだった。

反省

弓取さんのこともそうだが、人に頼りすぎてしまった。旅行にでる前から何か手伝うことも出来たと思う

地球の歩き方を持っていかなかった。あれは本当に便利！！

荷物をもっと減らしていくべきだった！

バックの鍵をなくしたなど、人に迷惑をかけてしまった。

もっと事前に勉強していくべきだった。特に英語！ベトナム語・タイ語

感想

本当に色々あった旅行だったが、ゼミ内の交流も深まったと思うし、行けてよかったと思う。私は、反省を踏まえ、また行きたい。そして、何よりも英語を勉強しなければ始まらないと思った。英語を話せれば何倍も旅行を楽しめるだろう。それと、携帯電話がなくても待ち合わせ出来たことが嬉しかった。最後にソントオのおじさん、本当にありがとうございました！



メコン川を下る

「海外研修レポートベトナム・タイ」

3年 栗城 宏行

今回、海外を実際に自分の足で歩いた事は、非常に有意義な経験となりました。今まで先生や、4年生が言っていたように、行ってみなければわからないことや、お金に変えられないものがあるという事を、実感することができた。また、海外の様子を、自分の目でみたり、体験することができたことで、海外に行くことの良さや、海外の怖さを知ることができたことも、非常に良かったことだと感じました。

・ 企業訪問 「味の素」「ワコール」

今回の企業訪問で、今まで勉強してきた海外直接投資についてより深く理解するきっかけとなった。

見学に行くまでは、海外に生産拠点を求めるのだったら、より安い労働力や、設備のある、中国に行けばよいのではないかと考えていた。しかし、味の素の場合のように、輸出を行わず、現地の市場で利益をあげるようなパターンもある事に気付いた。

また、ワコールの場合がそうであったように、すべて手作業で、綿密な作業が必要とされるような場合には、安価な労働力、設備が整っている事のような、表面的な要素だけが重視されるわけではなく、教育水準、識字率、国民性も重要視される事を学んだ。ワコールの場合では、全て手作業であり、綿密な作業が要求されるため、高い教育水準、識字率、勤勉な国民性が重視され、ベトナムに工場が建てられた事を知った。このことは、実際に現地の企業に訪問し、直接話を聞く事によって知る事ができた。また、海外直接投資が、ただ単に安い労働力だけを求めて工場を建てているのではなく、その国の状況、国民性を深く考慮した上で行われている事を知る事ができた。

今回の企業訪問が、国際投資論やゼミで、海外直接投資について勉強していくうえで、とてもよい経験となった。

・ ストリートチルドレン訪問

施設に訪問するまでは、とても気分は重かった。親に捨てられてしまったり、学校に通えなかったりと、小さな頃にそんな辛い境遇になってしまった子供たちと、一体どのように接すればよいのか、正直、わかりませんでした。しかし、そんな不安も、子供たちの笑顔を見て吹き飛びました。自分たちは、子供たちとは、サッカーをして遊んだ。ベトナムの子供たちが、意外とサッカーがうまい事に驚かされた。また、子供たちにカメラを向けると、とても興味を抱き、子供たちの最高の笑顔を撮る事ができた。

しかし、みんなで遊んでいるところから離れたところに、一人でぼつんと立っている子がいたりもした。一緒に混ざって遊ぼうともせず、下を向いている姿がとてもショックでもあり、印象に残った。今目の前で楽しそうに遊んでいる子供たちも、きっと最初は、そのような感じだったのかと思うと、施設の方々の多大な努力が伝わってきた。

今現在、ベトナム以外の途上国でも、教育を受けられない子供たちがたくさんいる。このような子供たちを救っているのは、NGO団体だったという事も知った。このような活動を支援することが、自分たちがするべきことなのではないかと感じた。

・ ベトナム全体を通して

本格的に海外を旅行したのは、今回が初めてでした。そのため、何をするにも驚きやショックの連続でした。例えば、空港を出てバスから見た外の景色は、本当に驚いてしまった。あのバイクの大群を目にしたときの衝撃は忘れられない。さらに衝撃的だったのは、3日目辺りから襲ってきた腹痛でした。正露丸を飲んででも聞かないほどの下痢になったのは、生まれて初めてでした。

ただ、最も衝撃を受けた事は、市場などで買い物をしているときに、自分が日本人だとわかると、現地の人々が近寄ってきて、ガムを売ってきたり、金をくれといった感じで手を差し出されたりする事があった。そういった人の中には、片腕がなかったり、足がなかったりする人もいた。そうでもしなければ生きていけない人や、腕や足がなくても、日本と違って、自分の力で生きなければいけないという厳しさの中で生きて、とても力強く生きているという風に、自分の目に映った。そんな人たちにお金を渡すのを、ためらう理由はなく、逆に自分たちにできる立派な経済支援なのではないかと感

じた。

全体的には、ベトナムでの生活は、ホテルのランクも高く、食事も合わないようなことはなかった
ので、とてもいい暮らしをしていたような気がします。特に、ビーチリゾートでの生活は、日本に居
る時よりもよっぽど贅沢な暮らしをしていた。思わず「こんな生活がずっとできれば・・・」と考えて
しまった。

・ タイ全体を通して

タイについてまず、コンケンへチャムナン君に会いにいった。コンケンまでは、バスで4 , 5時間
かけて向かった。バスから見るタイの景色は、ベトナムと違い、交通ルールがしっかりしていて、日
本と近いような印象を受けた。

チャムナン君に実際あってみると、思ったよりも大きく、写真で見た、会う前までの印象とは少
し違った。4年生から前に行った時は、町じゅうの人が集まり歓迎を受けたり、一緒に遊んだりしたと
聞いていたのですが、実際に行ってみるとそのような事もなく、行く前との印象はだいぶ違った。しか
し、タイの寺院に行ったり、できたこともあり、とても良い思い出となった。

ベトナム・タイ合宿のレポート

3年 坂本 佑美

9月12日

乗換えを含め9時間飛行機でとび、やっとベトナムに着いた。日本よりも湿気が多い気がした。けれ
ど、あまり海外へ来たという実感がなかった。こうして私にとっての初海外合宿は始まった。

9月13日

午前中は企業訪問へ。まず、味の素。ベトナム人と日本人の味覚は違うとのことだった。また、品質
にもあまりこだわりを持っていないらしい。今のベトナムは日本とは違い、若い層が厚い。そのため、
これから味の素の製品を多角化していくのだという。

次に、ワコールへ。ここで生産された製品は、すべて日本への輸出用であった。驚いた事に、作業は
100%手作業だった。ここでは、年功序列、終身雇用であるにもかかわらず退職率が高いらしい。
「ベトナムに企業を進出する際の強みは」という質問に対しては、ベトナムは教育水準が高く、基礎
ができているために製品の質をいいものにできるとの答えだった。



ワコールの工場を見学する

味の素の方、ワコールの方ともに言っていたことがベトナム人は勤勉で教えた事はすぐにできる。しかし、決められた事以外のことをやらないし、部下の育成を得意としないとのことだった。私のなかで、ワコールの方が言っていた、「ベトナムよりも日本の方が社会主義に見える。日本人は所得の差を人格の差ととらえてしまっている。」という言葉がとても印象的であった。これに対して、何も反論できなかつたし、むしろその通りであると思った。また、夜、味の素の方と食事をしたときに聞いたことなのだが、ベトナム戦争で北が勝ったためにベトナムの企業で重役になれるのは北の人間だけなのだという事にはとても驚いた。

昼食は現地の人が行くという店へ。トイレの横で焼いている豚肉がおいしいということに複雑な気分になった。

午後は戦争博物館へ。何も言葉にする事ができなかつた。現在も戦争のつめ跡に追われる状況を見て自分がどれだけ楽な生き方をしているのかを知った。最後にみた明るく笑っていた女の子の写真がありがたかった。

9月14日

メコン川クルーズ。風が気持ちよかった。蜂の巣に指を入れる事など絶対にできないことができた。

夕方から市場へ。バイクタクシーに乗った。ヘルメットもかぶらずに3人乗り。とても楽しかった。でも、日本人だという事ですごく見られたり、子供たちがモノを売りに来たりすることがショックだった。

9月15日

自由行動。何をしたくても英語が通じなかつた。自分の勉強不足を痛感させられた。道ですれ違った日本人みんなが親切に思えてしまった。

公園で休憩していたとき、どこの国の人かはわからないが10人くらいの集団に話しかけられみんな
で写真を撮った。全く知らない人と交流をもてることが自分の身になると思うと同時に嬉しかった。

9月16日

午前中ストリートチルドレンの施設へ。小学校1～2年生くらいの彼らの中には、ずっと笑ってくれる
子や、全く笑わない子がいた。カメラで写真を撮ると喜んでくれた。そのうちに自分たちで写真を
撮りだしたが、フラッシュがつかないと写真が撮れてないと思っていたみたいだ。私のカメラを気
に入っていた子が学校から帰るとき、わざわざバイバイをしにきてくれたことがすごくうれしかった。
そしてロンハイへ移動。

9月16日～19日

毎日ゆっくりと過ごした。19日の夜、タイへ向けて飛行機で移動。バンコクは蒸し暑かった。

9月20日

バスでコンケンへ移動。途中バスの中に、売り子の人に乗ってきていろいろなものを販売していた事
には驚いた。

タイでの交通手段はトゥクトゥクだった。夕飯は屋台で。日本では見たことのない光景で活気があり、
おいしかった。

9月21日

チャムナン君の村へ行った。チャムナン君は写真で見たよりも大きくなっていて、私よりも背が高か
った。また、寺で食事を出してくれた。しかし自分が何を食べているのかよくわからなく、不思議な
経験をする事ができた。

9月22日～25日

バンコクでは王宮やワットポーをみた。何から何まで細かい細工がしてあった。

また、パタヤでは交通手段がロットソントオというトラックのようなものだった。意外だったことと
しては、ベトナムに比べてタイには日本人が少なかった。

日本へ帰るため空港に向かう電車は3等車に乗った。電車は出発時間より30分も遅れて動き出した。
この感覚は日本にはなくて楽しかった。

無事日本についた時、本当にすごい緊張感から解放された気がした。

反省すべき点

- ・ 何から何まで人任せにしてしまったこと。浅見さんをはじめとしてみんなに頼りすぎてしまった。
- ・ 勉強不足だったこと。英語もそうだが現地の言葉や生活習慣、何から何まで勉強不足であることを痛感した。

感想

すべて今まで経験した事がなく、とても充実した2週間だった。反省点にも書いたように今度こういった機会があったときには、自分から行動をしていきたい。また、もっと積極的に現地の人など多くの人と直接話をしていきたい。大げさに言うわけではなく、本当に自分にとって忘れる事ができない良い経験ができたと思う。



味の素現地法人社長にお話を伺う

とりあえず、一度は海外へ…。(海外旅行未経験者の方へ…。)

3年 立川 孝司

今回の海外研修では色々な体験をし、そして色々な事を考えさせられた。前からアジアの国へ行ってみたかったし、ゼミ合宿だと観光で行くのはまた一味違うので、凄く有意義に過ごせたと思う。が、しかし、食事に関しては相当苦しかった……。だが、そのことも含めて良い経験をしたと思う。実際、東南アジアというか、途上国へ行くのは初めてだったので、どんな国なのか想像できなかった。

海外研修に行くことによって私が考えたこと、また、感じたことは、初めて途上国へ行くことによって受けたカルチャーショック(タイでは特には受けなかった) ストリートチルドレン、貧富の差など……。他にも様々である。今回はベトナムとタイの2カ国へ行ったが、どちらも途上国でしかも隣同士の国なのに、これ程までに違うのかというくらい差がありすぎた。

・ カルチャーショック

ベトナムでまず驚いたことは、バイクの多さである。車はバスやタクシーの他に、作業用と思われるトラック、あとはリッチな人が乗っている程度で、その他はバイクがほとんどで、若干名自転車の人もいる。スピードはさほど速くはないが2人、3人乗りは当たり前。中には4人乗りしているのも見かけた。そしてそのバイクが道路いっぱいに並んで走っている。衝突を避けるためにミラーは取り外してある。メーターが壊れているのもある。ヘルメットを被っている人を探すのが難しい。更に、交通ルールは、あまり信号がないためか最低限守っているが、ないに等しいと言っても過言ではない。事故を起こさない様にか、クラクションが鳴り止まないことはない。そのため、交通事故も多いようで、3、4度衝突事故を見かけた。

次に驚いたことは食事である。ベトナムで「美味いっ！」と思った食べ物には正直あまりありつけなかった。日本で育ったのだから仕方がないが……。例えば日本で美味しいと評判の生春巻きは別に大したことなかった。恐らく日本で日本人好みにアレンジされたベトナム料理の生春巻きを食べたら美味しいかもしれない。私が感じたのは、普段日本で食べるものよりベトナムの料理は結構匂いが強いもの、もしくは辛いものが多い。もちろんそれ以外のものもあり、例えばフォーは見るからに無難なメニューで美味しかった。私は基本的に味オンチなので大抵のものは食べられる。実際ベトナムで出された料理は完食とまではいかないが何でも食べてみた。結果お腹が悲鳴を上げた。まさに直流である。人間が慣れないものを口にするととんでもないことになるということが分かった。その後、お腹の調子は帰国するまでずっと治らなかった。しかし、それもまた良い経験になったと思う。ちなみにタイのご飯は美味しかった。もしタイの食事で問題があるとしたら、辛さの加減ぐらいだろう。

・ ストリートチルドレン

これもまた私が受けたカルチャーショックのひとつである。恐らく先進国で育った人には経験することはないと思うが、そこでは幼い子ども達が仕事をしていた。ホテルの近くは観光客が多いため、街を歩いているとやたら子ども達がガムや宝くじなどを売ってくる。幼くても生活をしていくために働かなければならない。路上にいる子ども達は寂しげというか悲しげというか、複雑な気持ちになるような表情をしている。

しかしストリートチルドレンが通っている施設を訪問した時、ストリートチルドレンに対する印象が変わった。施設にいた子ども達はとても明るく元気なかわいい子ども達ばかりだった。お互いに言葉は通じないけれど、手を繋いだり、肩車をしてくれとせがまれたり、キャッチボールをしたり、サッカーをしたり……。言葉が通じなくても何とかなるものだと思った。その子ども達が路上で寂しげな表情をしながら仕事をしているとはとても思えない。もちろんその施設の子ども達が仕事をしているところを見ていないので、寂しげな表情をしながら仕事をしているとは言い切れない。

私は最初子ども達が売りつけてくるものをかたくなに拒んでいた。しかし、施設を訪問し様々な事情を知ってしまったから色々なことを考えた。子ども達は路上でガムなどを売って、わずかながらお金を稼いで一日一日を精一杯生きている。どうせ売ののなら高ければ高いだけいいのであろう。そこで観光客が泊まるようなホテルの周辺などをうろついている。更により多く売るために必要な手段、例えば最低限の英語を覚えたり、芝居だと思いが泣いたりなどと、あの手この手を使って売ろうとする。生きていくためにモノを売り、売るために必要だと思ふことは何でも取り入れようとする。その様な事情など知らない私が始めに取った行動は、ただただ路上の子ども達を無視し続けることだった。

私は日本で生まれ、日本で育ち、今までお金には困っても、生活が危うくなることはまず無かった。ベトナムの子ども達ほど必死に生きようとしたことはない。生活基準そのものにかかなりの差があることを実感すると同時に、私が生活する環境がどんなに恵まれているのか改めて実感させられた。結局私はベトナムを去るまでの間、子ども達からモノを買わなかった。なぜか？と色々考えたが、その時はもし事情を知った上で買ったとしたら、それはそれで同情しているというか、見下しているというか、自分が偽善者になる様な気がしたからである。今まで様々な偽善的な態度をとってきたと思うが、それでも出来なかった。実際、買おうが買うまいが個人の自由だし、それを偽善的か否か、どっちが良くてどっちが悪いかなどという答えなど無いというのは分かっている。しかし、その時は何も出来なかった。正直、そのことについて今でも悩んでいる。そして、偽善という言葉に囚われている内は、答えは出ない気がする。

ストリートチルドレンとは別に同じような気持ちになったのが、ベトナム戦争で使用された枯葉剤、もしくは地雷などの影響によって五体不満足になってしまった人達や、やせ細った女性が幼い子どもを抱えながら「お金をください」と言われたり、黙って手を差し出してきたりされた時である。この時も複雑な気持ちになってしまった。

・ 貧富の差

ベトナムとタイを比較してみると、同じ途上国なのに差は歴然である。まず気付くのは、ベトナムは一般的にバイクで行動するのに対して、タイはほとんど車である。更に驚いたのはベンツ、BMW、TOYOTA、日産、HONDAなど、日本でもお馴染みの車が多い。そして道路も整っている。バンコクは思っていたよりも凄く都会で、道路沿いにはビルが立ち並び、夜はネオンが綺麗でにぎやかである。それに対してベトナムはビルというような建物はそれほど立っていない。道路も整ってはいるが、タイほどではない。

二つ目は服装である。ベトナムはどちらかというと、あるものを着るという感じで、タイはベトナムに比べて少し余裕があるのか、少しお洒落な印象を受けた。実際ベトナムでは、普段日本で着ている服が小奇麗に見えて浮いていたが、タイではそうは思わなかった。あと、ベトナムでは靴を履いている人はほとんどいない。サンダルもしくは裸足である。タイでは靴かサンダルを履いていて、裸足の人は見なかった。

三つ目は動物(ペット?)である。ベトナムの道端や屋台などにいる犬や猫を始めて見た時は正直驚いた。あまり食べ物に余裕が無いためか、凄くやせ細っている。そして、何かくれと言わんばかりに寄ってくる。それに比べてタイはまったく逆で、無駄に太っている。しかし、何故かほとんど動かず、死んだかのようにずっと伏せている。タイの犬は本当に不思議な感じがした。

・ 反省点

反省点としては色々あるが、まず、準備をしなかったことである。それによって終始皆に頼っていたことである。事前にベトナムとタイの事を浅く調べただけだったので、あまり役に立たなかった。しかも、ガイドブックなるものを皆が持ってきてあり余ることを予測し、荷物になると面倒と思ったため持っていかなかった。そして英語はやはり必要で、勉強しないと・・・と実感した。更にベトナム語やタイ語の必要最低限の言葉を調べていくべきだった。もう少し調べておけばよかった。

もう一つは、今まで海外研修を拒んでいたことである。拒んだ一番の理由はやはりお金である。海

外へ行くだけあって、どうしてもそれなりの費用がかかってしまう。そして、そのことを海外研修に行かないうちは理解できない。しかし、今回海外研修に行ったことで、今まで卒業生や4年生が何度も「行ったほうがいい。」と、言っていたことが理解できた。私は費用以上の体験をすることが出来たと思う。

今回私が一番強く感じたことは、研修でも旅行でもとりあえず“海外へ行くこと”である。日本の観光地で感動するのもいいと思うが、国内だとただ感動するだけで終わってしまったりする。それは恐らく日本だから言葉も習慣もそれ程変わらないからであろう。しかし海外へ行くと言葉も違えば、習慣も違う。そういう所へ行くと感じるだけでなく、色々考えたり、考えさせられたりすることが多い。それに、日本はいつでも行けると思うが、海外はそうもいかない。「百聞は一見にしかず」とも言うので、まだ行ったことのない人は、とりあえず一度は海外へ行くことをお勧めしたい。絶対損はしないと思う。

そして、海外研修へ行く前まで卒業生や4年生に口をすっぱくして言われたことを、今度は私が伝えていかなければならないと思うと少し骨が折れそうだが、出来るだけ多くの人に伝えていければと思う。

研修旅行

3年 戸井 俊夫

自分はウルルン滞記気分ドキドキしながら日本を出発した。初めて日本という小さな島から出て、日本を客観的に見ることができ、日本の良さ、悪さ、価値観、考え方などいろいろなことを考えさせられる旅になった。

ベトナムは、ノーヘルでバイクが何百台も走り、クラクションは意味のないところで鳴り、それだけでテンションが上がってここが外国だとわくわくしたのが初海外の自分の印象だ。ホーチミン、ロンハイと二カ所行ったが自分が印象深いのは、屋台、企業訪問(味の素・ワコール)、ストリートチルドレン、ロンハイだ。

初の海外の料理、しかも現地の人食べる料理と同じということで腹とかに多少自信がある自分は「がつついてやろう」という勢い的な気持ちと「腹に当たるかな」という弱い気持ちが交わりながら屋台に入った。いざ食べてみると箸は進むが口が大きく開かなかった。それに、異様な臭いが料理をもってくるころから漂ってきていた。そのにおいの向こうには衛生の悪い所での料理作り、すごい経験をしているなど感じた。味は全然食べられるあじだったがおいしいとは思えなかった。腹の調子だがここでは痛くならなかったが、数日後どこで当たったか知らないが自分の尻は蛇口状態になっていた。ハエなども気になっていたが数日すぎれば全然気になんなくなっていた。慣れは怖いなというかベトナム人に少しだけ近づいていたかもしれない。

次に味の素・ワコールの企業訪問だが、印象に残っているのは味の素の方の食事とワコールの人の話だ。味の素の方の食事では、ベトナム初の何も考えずがつつけた料理だったのを覚えている。でも、本場の生春巻きだけは結構期待していたのに少しだけ裏切った料理だった？両方の方たちに共通しているのが、どちらの方もベトナムと日本の考え方の違いを知っているからそういう話を聞いただけでもすごい勉強になった。特にワコールの方の話はおもしろかった。特に「日本の常識は世界の非常識」というのが耳にすごい残っている。日本人がもっている価値観では、世界には通用しないということだと思う。それを感じれるようになるにはもっと世界を経験したり、1カ国にもっといなければ

感じられないかもしれない。でもグローバル化になってきた今では常に考えていなければならない言葉だと思う。

次にストリートチルドレン訪問だが、自分のストリートチルドレンのイメージは暗い感じで心を閉ざしている子がいっぱいいると思っていた。しかし元気がよく、笑顔も良いし、すごく純粋でかわいい。ほんとに寂しい子供達なのかと思ったぐらいだ。でも遊んでみると、無邪気に遊んでくる子供は心の傷が治りかけてきたのかなと思うが、他人と距離をおいて笑顔がない子などはまだ心の傷が癒えてないんだなと感じた。まだ子供で、周りにも同じ友達がいるから今は良いけどもう少し成長したらどんな考えを持つのかなと思う。ちょっと悪くなる子、努力する子、様々な子がいろんな考えをもって成長していくと思う。難しいかも知れないがこういう子供達に社会に出てがんばって欲しいと思う。それはベトナムがまだまだストリートチルドレンが多い国だからだ。同じ境遇にたった者が同じ境遇の者に勇気を与えて欲しいからである。自分達ができることとしては、訪問して遊ぶことやベトナムに行ってお金を落として行くのが大事なのかなと思った。

次はロンハイだが、調子が悪くて一日だけ寝込んでしまった場所だ。自分の中ではかなり不覚だった。ロンハイはリゾートということで海を期待していたが、雨期ということで汚くはいれなくて残念だった。その分プールで遊べたから良かったけど。一番の思いでは、カブを壊したことだ。ノーヘルで道もできてない道を走っている途中にカブがとまった。すこしパニックになるがそのたびにシャイなベトナム人がカブの調子を見てくれる。結局、まちがえてエンジンオイルを入れて壊してしまった。でもベトナムの旅を通してだがベトナム人はすごい心が温かいと感じた。都市といわれる場所では、冷たい感じの人もあるが地方の方達は温かい。ツアーだったらこのような経験もこういう感じ方も絶対に出来なかったと思う。

タイは、はっきり言って楽しみも多かったが不安も多かった。僕たちだけというのが一番の不安だった。しかしいざ到着し行動してみると、飯はうまいは、ゲストハウスは以外に心地よい。自分たちは、バンコクのカオサンロードを中心に生活をしていてバックパッカ発祥の地だけあって西洋人を始め、日本人などもたくさんいて活気づいていた町だった。

一番気づいたことは、日本人はせかせかしているということだ。西洋人などはゲストハウスで一日のんびりしている。日本人はあまりのんびりしてない。これも考え方、リズムの違いだと思う。それをまねしたわけでもないが自分もバンコクでゆっくり休養をとった。でも博物館や王宮、チャイナタウンなど少しは行動した。このバンコクを経験して一人でも旅行できるなど少しではあるが自信を持った場所になった。

チャムナン君に会うまでは、結構貧しい暮らしをしていて観光客も行かないような場所だから、この旅で一番すごい場所に行くんだなと不安とワクワクした気持ちがいっぱいだった。聞いていた話だと村の人たち大勢で歓迎されると聞いていたが歓迎もなかった。それに村の子供達は自分たちにあまりよってきけなかった。チャムナン君を見たときは笑顔が良くて、大きい少しシャイな子だった。大きい広場で仏様に供えてあった食べ物を僕らにごちそうしてくれた。このごちそうもこの旅の中の2位か3位ぐらいにはいる結構な料理だった。あれ、あれ、という間にチャムナン君訪問が終わってしまった。この町は後3年後ぐらいをめどに支援をやめるらしい。それだけ裕福になってきている。自分もそこまで貧しいところではないと思った。まだまだ世界には貧しい村はたくさんある。自分はそういう貧しい村に支援をしていったほうが、心の底から喜んでくれんじゃないかなと思った。それは、チャムナン君の所について感じたことだ。

最後に僕ら日本人は、世界の中でもかなり恵まれている。だから、先進国から発展途上国までの国々を経験しようとするれば経験できる。しかし、発展途上国はこれからもずっと経験できないはずだ。その違いか、ベトナム人などは欲がないと感じた。町を歩いてもゲームで遊んでいる人、ボーっとしてる人、あまり仕事をしてないように感じた。それは、これから先努力してもベトナムにしかいられないからかなと思った。でも1つのことを教えればまじめに仕事をするがそれ以上はしないと聞いた。逆に日本人は、いろいろな経験などができるから欲が出る。だから1つのことだけに執着しなくても良い。普通に考えたら日本に生まれて良かったうれしいと感じる。それだけ日本という国は自由で恵まれている。生まれたからには世界中の国々に行って、もっと自分の視野を広げ、価値観などをもっと知って、もっともっと刺激的な体験をしたいと思った。

反省点としては、言葉を勉強し、プランをしっかり立てないといけないなと感じた。それに今回は、4年生にすごい助けていただいた部分大きい。北畠さん、永田さんにはチャムナン君の村に対する手紙、杏園祭のこと、その他、そういうことに協力してもらって旅がスムーズに行ったと思う。浅見さん、弓取さん達にはタイまでいっしょに旅をし、海外初めての僕たちがこの旅を充実したものにできたのも浅見さん、弓取さんのおかげだと思う。だから4年生の方達には本当に感謝している。海外研修を始めは嫌がっていた僕らだが、いってみたら楽しく3年生もよりいっそう仲良くなったと思う。これをどう2年生に伝えるかが僕らの課題だと思う。



メコン川の小島で蜂の巣から蜂蜜を採る



研修旅行最後の夜は、スイートルームでホームパーティ、お疲れ様でした。